大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

八木先生を送る

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天羽, 均 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/10259

八木先生を送る

21世紀へのカウント・ダウンがいよいよ始まっている。大学の周辺も、数年前から出ている将来計画や、今回の大学設置基準の改正をめぐって騒がしさを増している。われわれのところでも本年度から言語文化コースとして新しくドイツ語、フランス語国圏文学・語学から広く文化・文明に及ぶ専攻がスタートした。こうした動きも1985年ゴルバチョフ登場以来のソ連・東欧を中心とした世界の動きから見ればきわめて局地的なものに見えてしまう。なにしろポツダム体制の終焉の波紋は燎原の火のごとく広がり、ベルリンの壁の崩壊、東西ドイツの統一、さらにはソ連邦の崩壊などその直前まで想像しえなかった事態がつぎつぎと起こったのである。テレビも見ずに研究室にこもっていたりしたら、出てきてみれば浦島太郎ということも誇張ではない。

まえがきが長くなってしまった。だが八木先生を送るとなれば、世界情勢に触れないわけにはいかないだろう。とてもしんみりしているときではないが、八木先生も定年になられると思うと時代の流れ、というよりは年の歩みがいかにしても止めようのないものであることが痛感される。大阪府立大学ではいちばん長くご指導いただいた方であり、その間、府立大学だけでなく、戦後の日本の大学の歩みそのものを生きてこられた最後の世代といえるだろう。戦後の廃墟に生まれまだ新制大学と言い慣らわされていた時代、浪速大学から大阪府立大学に、教育学部から教養部へと体制が整えられたときから今日の総合科学部にいたる歩みを経験された最後の世代である。「独仏文学」の名で出す最後の号になるかもしれない本誌がご退職記念号となるの

もなにかの因縁であろう。

しかし八木先生には長老的な懐古譚はふさわしくない。先生はつねに独自の感度のよいアンテナで流れを追ってこられた。われわれが新しい歩みを始めるにあたって先生が育ててこられた新しいアンテナが遅滞なく作動するのを祈るばかりである。そしてそのアンテナで八木先生のお元気なご活躍が引き続きキャッチできることを切に祈っている。

(1991.11.15)

仏語教室　主任

天　羽　　均